色彩教材研究会通信　No.433　2025.3.13

発行人：永田泰弘
nagataya@jcom.zaq.ne.jp

●来年度に向けて「主査の募集」

第１回色彩教材ギャラリートークが大盛況のうちに終了しました。この流れをキープしつつも来年度に向けた体制作りを考えていく必要があります。

研究会通信 No.416（2024.11.14）にお知らせしましたが、現主査の吉澤は，本来は２年の任期でしたが、一身上の都合のため、本年３月 31 日付で主査を退任することとなりました。

そこで，少し早いタイミングになりますが、新主査の募集を行いたいと思います。

主査になることによって、色彩教材に関する勉強会やイベントの企画・開催をするなど、イニシィアティブを持って取り組むことができるかと思います。第２回色彩教材ギャラリートークについても開催を希望します。ご希望の方は，3/22（土）までに現主査の吉澤までメールでご連絡下さい。

ご希望がない場合には，色彩教材研究会に関する一切の決定を現主査の一任とさせていただきますので、ご了承下さい。

みなさまのご応募、お問い合わせをお待ちしております。　※お問い合わせ先：吉澤陽介（yoshizawa@j.kisarazu.ac.jp）

（吉澤陽介　主査より：033）

●「日本の伝統色」の監修を終えて

三才ブックスの「日本の伝統色」に掲載するため、20 代の編集者さんより、これまで一緒に作成した５作品の写真と異なる観点から撮影された画像を使用したいという意向がありました。そのため朱色に載せた写真は鳥居ではなく、神橋の写真を日光二荒山神社からお借りしています。紅葉だけでなく新緑の風景など、素晴らしい写真を何枚も無償でご提供くださいました。また海松色の由来となった海藻の海松の写真は、よく文献で見る平面的な写り方ではなく、海の中での生態がわかるような写真を入れたいとのご希望があったため、別途「海松文」のイラストも入れる工夫をしました。思い出深いのは「二人静」の写真で、たまたま能楽シテ方の流派、梅若流の若手で活躍されている志長さんと紀佳さんのお母様の志歩さんと知り合い、写真の相談をしたところ、ご厚意によりお貸しいただきました。制作メンバー全員で国立能楽堂に舞台の鑑賞に伺い紀佳さんより直接原稿のアドバイスをいただくこともできました。

このたびサンデー毎日（３月 16 日号）で作家・エッセイストの大平一枝氏より、色の脇道の物語を伝えたいという想いが伝わってくるとご紹介いただきました。　（橋本実千代）

●大辞泉ひろいよみ　77 ーこ

香衣：こうえ。薄赤に黄を帯びた香染の僧衣。のちには青・黄などの僧衣にもいう。

黄衣：こうえ。浅葱色の袍。無位の人が着用する。僧の着る黄色の法衣。

紅衛兵：中国の文化大革命で、一九六六年に毛沢東の指導のもとに作られた青少年の組織。のち、極左主義と内部分裂で崩壊。

紅炎・紅焔：こうえん。くれないの炎。太陽の彩層からコロナの中に立ち上がる炎状のガス。

黄鶯：こうおう：コウライウグイスの別名。

紅黄草：こうおうそう。マリーゴールドの別名。

黄屋：こうおく。昔、中国で天子の乗る車をおおう、きぬがさ。転じて天子・帝王を敬っていう語。

紅花：こうか。赤い色の花。ベニバナの花を乾燥させたもの。

紅霞：こうか。くれない色のかすみ。夕焼などでくれない色に染まった雲。

黄河：こうが。中国第二の大河。

黄海：こうかい。中国と朝鮮半島との間の海。

紺掻き：こうかき。染物屋。こんや。こうや。こんかきの音変化。

＊大辞泉：小学館発行国語辞典　（永田泰弘）